

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101188		
法人名	医療法人 仁生会		
事業所名	グループホーム 赤とんぼ		
所在地	高知県高知市万々397		
自己評価作成日	平成24年12月27日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型のグループホームで、共有スペース、庭、居室は家庭的な雰囲気を大切に、落ち着いた環境作りを心がけている。食事の支援では、利用者と話合っ、献立から食材の買出し、調理、盛り付け、後片付けまでの一連の作業の中で、出来る事に参加してもらっている。外出支援では、その時にいきたい所へ、入浴は、午後と夜間に利用してもらうなど、柔軟に対応している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970101188-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970101188-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年2月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に量販店や商店街があり、住宅地も広がる便利な地域に立地する事業所は、近くに川や田畑もあり、自然にも恵まれた環境にある。民家を改築した木造2階建ての建物で、1階部分の半分ぐらいのスペースを占める居間兼食堂に利用者は集まり、家庭的な雰囲気の中で生活している。利用者は散歩や買い物の日課とし、月1回以上は外食を兼ねた外出や花見等に出掛けるなど、戸外での生活も楽しんでいる。職員の年齢構成は20代から60代までとバランスが取れており、職員間で互いに経験や知識を補い合い、日々のケアに反映させている。また、利用者にとっても孫、子供、姉妹のような間柄を感じることができ、家族のような雰囲気が醸成されている。管理者が利用者と職員の要となり、地域住民や家族との触れ合いも大切にして、利用者がその人らしく生活を送れるように支援している事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有するため、日常的に事業所の方針や、目標を伝え、各職員との共有に努めながら、日々のケアに取り組んでいる。	「地域住民や家族との触れ合いを大切にし、利用者がその人らしく生活できることを支援する」という趣旨の理念を作っている。理念は事業所内の要所に掲示し、月1回の職員会でも伝えて確認し合い、散歩、買い物、行事等を通じて、利用者が地域の一員として生活できるように支援している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の必要物品購入の際には、近くの商店を活用し、生活の中で地域の方との交流を行なっている。	買物は地域の商店や量販店を利用し、毎日の散歩の時は出会った住民とあいさつを交わし、地区のバザーや運動会にも参加して交流を図っている。また、併設のデイサービスセンターを利用して南海地震に備えた講演を開催するなど、地域での存在感を高める取り組みもしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を軸に、GH便りやお知らせを回覧板に載せるなど行なっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みを随時報告している。又、意見しやすい雰囲気作りにも意識し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は併設のデイサービスセンターで行っており、当該施設が休みの水曜日に実施している。全家族に案内を出しているがほとんど出席は無く、地域代表の出席も少ない。会議では、災害対策等が話し合われているが、地域包括支援センターと職員だけの会が多くなっている。	運営推進会議を活かした取り組みを行うためにも、家族や地域の代表が出席できない具体的な理由を分析し、日程や開催場所の設定等を工夫し、構成メンバー全員の参加を得て、運営推進会議を開催することが望まれる。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご家族様からの相談やご利用者様の状況について等、疑問や問題点があればその都度連絡を行い、交流を図っている。	福祉課の担当者と日頃から連絡を取り合っている。事故報告や困難事案等についても関係部署に出向いて報告や相談を行うなど、連携を図るよう努めている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り、職員会などでケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行なわれていないか、ご利用者様が受ける精神的弊害への理解度はどうか話し合い、職員の共有認識を図っており、拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は年1回以上、法人内外の研修を受講している。日々のケアにおいては利用者と同じ目線の高さで話をすること、否定的な言動は行わないこと等に留意し、互いに気がついた時は注意し合うなど、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○JTを行ったり、日常的に本人に問いかけし、一人一人の意識を高めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料をいつでも閲覧出来る様に置いている。必要があれば活用出来る様に体制を整えている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に重要事項説明書、運営規定の説明を行なっている。疑問点など言いやすい雰囲気作りを行い、確認しながら説明している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者様の意見・不満・苦情を言えるような雰囲気作り、関係作り、表情の観察などに努めている。又、ご家族様等の意見の反映として、年1回サービスに関するアンケートを発送している。母体病院に郵送するシステムで、ホーム便りにも掲載している。	年1回家族会を開催しており、会の初めに家族同士で話し合う時間を設け、その後で職員が入り意見交換をしている。参加する家族が多くないため、今年から行事に合わせて家族会を実施するようにしている。会で出される意見は利用者の身の回りの整頓等ケアに関することが多く、個別に聞いた内容とも併せて検討し、サービスの質の向上に反映させるようにしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会(月1回)、毎日の申し送り時に職員が意見や提案できる時間を設けている。	毎月1回職員会を実施している。会の時間は1～2時間ぐらいで、当日休みの職員も時間外出勤で参加し、広く職員の意見を汲み取るようにしている。出された意見のうち、法人に上げる内容については管理者から個別に在宅部長等に話し、運営に反映させるようにしている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会などを通して、新しい気付き、初心に戻るような気持ちを職員で共有できるようにしている。又、法人内での人事考課制度を利用し日頃の状況を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での職員教育計画を作成している。職員会での伝達講習の時間を整えている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・GH連絡会や研修に参加し、交流を図っている。又、3ヶ月に1回高知市西部地域GH連絡会があり、意見交換などを行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の時点で十分時間を作り、ご本人様の状況把握に努めている。話しやすい雰囲気作りにも意識し、ご自宅や施設での面接を行っている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で十分時間を作り、ご家族様からこれまでの状況や要望などを傾聴し、信頼関係を築いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分話しを聞き、必要ならケアマネ、MSWや他サービスの利用についても話している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあけてご利用者様、ご家族様、職員が共に支えあう関係作りを目指している。職員一人一人が環境作りや声掛けに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は、ゆっくりとお茶やおやつを召し上がったり、散歩や外出をする等、生活の中で関わっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会の方が冊子を持ってこられたり、今までの関係が途絶えないように努めている。ご友人、ご家族様等が来訪しやすい雰囲気作りにも意識している。	数人の利用者は知人が来訪しており、主に自分の居室で話をしたりして親交を深めている。また、近隣に住んでいた利用者は地域の商店街に買い物に出掛けることにより、以前からの知人等に会ったり、郊外出身の利用者はドライブや花見で自宅近くまで出かけるなど、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ屋根の下で自然と関係が出来ている。無理に関係を作るのではなく、自然にできた関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様も時々訪ねてくださる。その度、思い出話を語りながら、来訪しやすい雰囲気作りや声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時や、日頃からご本人様やご家族様の希望や意向の情報を集め、ご本人らしい生活が築けるように取り組んでいる。	ほとんどの利用者が自分の思いや意向を伝えることができる。意向の把握が困難な利用者についても、「はい」、「いいえ」の意思表示はできるので、家族からの話し等を聞き、本人からも確認して、利用者本位の支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様、知人との思い出話などから今までの生活ぶりを把握している。又、ご家族様やケアマネージャーなど介護関係者からも情報提供を受け、生活暦を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、業務日誌、バイタル等のチェック表を毎日記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の要望をもとに、職員の気付きも取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。モニタリングは2～3ヶ月毎を基本に、状態変化などがあればその都度行っている。	家族からは病院受診時や面会時に話を聞き、職員会の時にサービス担当者会を行い、介護計画を作成している。モニタリングは2～3か月に1回行い、状況に変化があればその都度計画を見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況、その時の気付き等を毎日記録している。又、業務日誌や申し送りノートにも大切なこと等を記載し、情報の共有を行なっている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制が整っており、受診等は看護師の指示のもと適切に行ったり、入院の場合は、早期退院に向けて医療機関との情報交換に努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活していく為に、ご利用者様一人や、職員と共に近所へ買い物に行かれたり、地域の催し物に参加し続けていく事で、理解や協力が得られる様になり、その人らしく生活を送れている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったかかりつけ医に受診している。又、かかりつけ医が往診されている方もいる。	基本的に従前からのかかりつけ医に受診している。受診時は家族が付き添っているが、困難な場合や緊急な場合は職員が同伴している。受診時の情報提供や受診結果については口頭や書面で確認し、適正な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として、週1回看護師が健康管理として勤務し、何かあった場合には24時間体制で相談や対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはMSWに情報提供を行い、定期的に病状確認に行なっている。又、退院前にはMSW、医師、看護師とカンファレンスを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、意思の確認が出来る体制を作っている。日頃から、出来る事と出来ない事を話し合っている。今後について、医師、看護師、ご家族様、職員等と連携を図っている。	過去に重度化した利用者はいるが、最終的に入院することになり、看取りまで至った事例はない。重度化した場合は事業所での対応を検討し、利用者の状態の変化等を見極めながら関係者等と話し合い、利用者、家族の希望を汲み取って可能な支援を実施することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置の研修を受講したり、緊急時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回日中・夜間を想定した火災、地震等の災害に対する避難訓練を行っており、地域の方と共に行っている。	春と秋の2回、地域住民も2～3名参加して、避難訓練を実施している。近くの量販店で実施している地区の防災訓練にも参加し、講師を呼んで防災の講演会を開催するなど、災害に備えた取り組みを行っている。非常用食料等についても準備しており、現在建物の耐震補強も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にあるように、各ご利用者様の人格を重視し、配慮ある対応に努めている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保については、主に事業所内の勉強会等で周知している。利用者への声の掛け方、声の大きさ、話の内容等、気になることがあればその場で注意し、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせて、開かれた質問、閉ざされた質問を利用しながら、選んでいただけるように常に意識して声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを決めておらず、ケアプランにもあるように、その人らしく生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どんな服を着るのか等も、毎日ご利用者様に決めてもらっている。又、理・美容室は、行きつけのお店に行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒にいき、旬の食材や、新鮮な物を取り入れた食材選びをしている。その日のメニューは利用者と相談しながら決める。調理、盛り付け、片付けなど一連の作業と一緒にやっている。	献立は利用者の好み等を聞き、職員が作成している。栄養のバランスについては法人の栄養士にチェックしてもらい、食材は週2回地域の量販店等に行き出しに行っている。利用者は下ごしらえや盛り付け等を一緒に行い、食事の時も利用者及び職員が同じものを一緒に食べ、見守りや介助をしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記録し、職員で情報を共有している。一人一人の好みや栄養バランスにも配慮し、刻み食でも個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、見守り、介助を個別に対応している。就寝時には、ポリドントにて洗浄する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人様の生活リズムに沿ったトイレ誘導をしている。失敗してしまった場合でも、周囲に気付かれない、ご本人様が傷つかない等の配慮をしながら対応している。	利用者の排泄パターンを把握し、全員トイレでの排泄を行っている。半数ぐらいの利用者は自分でトイレに行っており、夜間もポータブルトイレは使っていない。日中は全員布パンツで一部尿取りパッドを使用するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつは繊維質の多い食品などを取り入れている。家事活動や散歩など、体を動かす機会を設けて、自然排便できる様取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、日中や夜間浴などの希望に合わせた入浴が出来ている。入浴を嫌がられる方の声掛けなど、チームでの入浴支援を行っている。	平均して2～3日に1回は入浴しており、毎日入浴する利用者もいる。自分で入浴できる利用者は夜間でも対応可能であり、利用者の希望に沿った支援を行っている。入浴を拒否する利用者もいるが、出来るだけ入浴を意識させないようにして、2～3日に1回は入浴できるように支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、個別に休息を取り入れている。夜間の不眠社には、日中の活動(外出、家事、レクリエーション等)を活発にしていただき、安眠への支援に努めている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握出来る様、勉強の機会を作っている。治療や服薬調節など状況を詳細に記録し、心身上の変化や経過状態を看護師に連絡対応出来ている。薬は、個別にケースに入れて管理し、ご本人様に手渡し、服用の確認を行う事で、飲み忘れや誤薬を防いでいる。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で力を発揮してもらえる場面を作り、お願いできそうな仕事や役割を頼み、感謝を伝えている。又、外出や買い物等の支援も多く行えるよう努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に沿って、外出を楽しめるように取り組んでいる。又、申し出が遠方である場合には、バスでの外出計画に組み込んだり、ご家族様等の参加や協力を呼びかけている。一人一人の思いが叶えられる様に、外出支援の実現につなげている。	日常的に事業所周辺の散歩や買い物に出掛けている。散歩が嫌な利用者もドライブには出かけており、希望に沿って戸外に出掛けるように支援している。また、月1回以上は全員で会食を兼ねてドライブに出掛けたり花見に行くなど、行事としての外出も積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、買い物の際に支払いをお願いしたり、お金のある安心感や満足感に配慮し、社会性の維持につなげている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等、ご友人からの手紙や電話を歓迎し、利用者様が気軽に手紙を書いたり、電話をしたり出来るような雰囲気作り、声掛けを行っている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型であり、家庭的な間取り、雰囲気作りを大切にしている。廊下やトイレ、風呂場なども程よい広さで、居心地良い空間になっている。季節に応じた草花も、利用者と一緒に選んだ物を植えている。光もカーテン、ブラインドで適度に調節している。	民家を改修した事業所で、1階のスペースの約半分が台所、食堂、居間になっている。居間にソファを数脚置き、食堂にも3か所に分けてテーブルを配置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるように工夫している。また、玄関脇には季節の花を植え、利用者が世話をしたり観賞して楽しめるようにしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるよう、踊り場に空間を作ったり、テーブルの上に蛍光灯を設置して、細かな居場所作りを行っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ご利用者様の居室には、タンスや仏壇、テーブルセット等を持ち込んで、その方が安心して過ごせる環境作りを行っている。	居室の広さや向きはそれぞれ違っており、思い思いにベッドや机等を持ち込んでいる。タンスの上には位牌やぬいぐるみを置き、利用者が自分の家のように感じられるように工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いたる所に、手すりや滑り止め、夜間でもわかるように蛍光のテープを貼っている。又、食事の際にはお盆を利用し、混乱しないように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				